

2024 年度「FD を推進するための活動補助」報告書

札幌学院大学 FD センター長殿

2025 年 2 月 14 日

(申請者名) 照 山 秀 一	(複数で申請の場合、参加教員の氏名)
(科目名) 教職特講、英語科教育法 B・D	
(取組の趣旨、実施計画、今年度の達成目標) の報告 教職課程における、生徒を観察し、授業を展開できる実践力の育成 -360 度カメラで撮影をした映像を用いたケーススタディを通して- 【取組の趣旨】 本取組は、学生が行う模擬授業を、従来のビデオカメラに加え 360 度カメラでも撮影。その動画映像を使用し、振り返りやケーススタディを行うことにより、学生の主体的な学びを促すとともに、授業力の向上を図ろうとしたものである。 ※ケーススタディと似た方法として、自ら解決策を考えるケース・メソッドという方法がある。本取組では、学習者が、これまで学んだ知識を踏まえ改善策を検討する場面はあるものの、指導者からの課題提示や指導などの受動的な側面もあることから、ケーススタディという用語を使用している。 【本年度の取組報告】(手続きなど) 1 映像について ・ 授業映像は、「英語科教育法 B・D」、及び「教職特講」での学生の模擬授業を撮影した。 ・ 「360 度カメラ」で撮影した動画（以下、360 度映像）と、従来のビデオカメラで撮影した動画（以下、従来型映像）の比較を行うため、2つのカメラ（360 カメラと従来のビデオカメラ）で模擬授業を同時に撮影した。撮影時期は、2024 年 10 月～2025 年 1 月、2 年生 6 回（2 グループ×3 回）、3 年生 12 回（3 グループ×4 回）の模擬授業を撮影した。 ・ 撮影した映像は、振り返りで使用するため、履修者全員に許可を取り、2つの映像（360 度映像と従来型映像）は、クラウド上に視聴者を限定し公開した。 2 振り返りとケーススタディについて ・ 実践と振り返りの流れは、コルトハーヘン(2010)の ALACT モデルを基に、経験学習サイクル (Kolb, 1984) を循環させることをねらいとし、次の模擬授業の実践につなげるよう下記のように実施した。 ・ ①模擬授業の直後、教師役、生徒役、個々の気づきをクラウド上の掲示板に記入させるとともに意見交流を実施。②学生は、掲示板に記載された気づきを参考に、授業外の時間でクラウド上の動画を視聴し、振り返りレポートを作成・提出。③その後の授業で、学生が作成した振り返りレポートの交流、及び全員でケーススタディを実施し、個々の考えを交流・深化させた。④ケーススタディを踏まえ、振り返りレポートを修正・提出させた。 ・ ケーススタディでは、振り返りレポートや指導者（教育法の担当者）の視点を踏まえ、課題となる場面（生徒役とのやり取りや、活動中の机間指導などの場面、教師役の発問や板書など）を、従来型映像と 360 度映像で視聴させた。その上で、学生には、教師役は、何を見て、どのような点に配慮し、どう対応すべきだったのかなどの改善策を検討させた。 ・ なお、映像を使用した振り返り練習のため、各グループの第 1 回目の授業の振り返りでは「従来型映像」のみを視聴させレポート作成させた。 3 達成状況等の把握 ・ 2つの映像の効果を分析するために、すべての模擬授業終了後、履修者へのアンケート調査を実施した。項目は、①生徒の様子理解、②教師の動き理解、③教室全体の状況理解、④授業改善への意欲喚起、⑤授業力の向上への有用性、の 5 つの視点から調査を行った。	

- ・その他、指導者（教育法の担当者）がレポートの記述内容や授業観察を基に状況を把握した。

【本年度の達成目標の報告】

本年度設定した RQ は以下の通りである。

RQ 1：模擬授業を撮影した映像は、生徒の活動の様子を観察したり、理解度を判断したりする力を育成することにつながったか。

RQ 2：振り返りの題材として使用する映像は、教室内の、どの場所から、どのくらいの画角で撮影したものが、授業場面を想起させやすいのか。

RQ 3：題材として使用する映像は、従来のカメラで教室後方から撮影したものと、360° カメラで撮影したものを比較した時、教師の視点、生徒の視点、双方のやり取りなどを捉えるには、それぞれどのような点が優れているのか。

（期待された効果、他の授業科目への適用可能性）の報告

【期待された効果の報告】

学生に対する事後アンケート及び、学生の振り返りレポートの記述内容の分析と、指導者（教育法の担当者）の授業の観察等も踏まえ、RQ と期待された効果について以下の通り報告する。

RQ 1 に関して

- ・振り返りレポートでは、当初、授業構成や教師役の動きのみに着目した記述が多かったが、次第に、生徒役の活動や反応の観察、状況に応じた指導の工夫などに関する記述が増えた。
- ・授業においても、机間指導等により生徒役の状態を把握している様子や、生徒の反応に応じて適宜、対応を工夫しようとする様子が見られるようになった。
- ・事後アンケートでは、模擬授業を撮影した映像は、自身の授業力の向上に役に立つと全員が回答した。

RQ 2 に関して

- ・「従来型映像」は教室後方から、空間認識に優れる「360 度映像」は教室の前斜めから撮影することにより 2 つのカメラの特性を活かした撮影ができる。
- ・「360 度映像」の画角（視野角）は、標準設定（150 度）でもスワイプすることにより教室の状態を把握することが可能。

RQ 3 に関して

- ・「教師の視線」や「教師の動き」がわかりやすいのは、教室後方から撮影した「従来型映像」。
- ・「机間巡視の様子」、「教師と生徒、生徒同士の相互関係」、「生徒の反応や活動、集中度」など、「教室の状況」わかりやすいのは「360 度映像」。
- ・「従来型映像」と比べ「360 度映像」は、授業を客観的に俯瞰する視点で見ることができる。
- ・「従来型映像」と比べ「360 度映像」は、振り返りにおいて、教師と生徒の関係、生徒の活動などに意識を向けさせる効果がある。

全体を通して

- ・「従来型映像」と「360 度映像」は学習者に、自身の視点とは異なる情報を提供することができ、教師側、生徒側、参観者側など多角的な視点からの授業分析が可能となる。
- ・「従来型映像」は、主に、教師の視線や動き、板書などの観察に役立ち、「授業を組み立てる力」、「授業を計画通り展開する力」などへの意識を高めることができる。
- ・「360 度映像」は、主に、机間指導や教師と生徒、生徒同士の相互作用の観察に役立ち、「教室全体の様子を理解する力」や、「生徒個々の状態を把握する力」、「生徒の状況に応じて指導する力」などへの意識を高めることができる。
- ・自身の模擬授業体験に加え、第三者の視点からの映像提供は、振り返りの質を高めるとともに、改善への意欲を喚起することもできるので、授業力の向上につながることが期待できる。
- ・ただし、現段階では「従来型映像」と「360 度映像」を同時に視聴することができない。そのため、多角的な視点で振り返りを行わせるためには、事前に、指導者（教育法の担当者）が振り返りの観点（視聴のポイント）を学習者に指示する必要がある。
- ・今後の主な課題は、振り返りの質をさらに高めるため、他のアングルや位置、さらに広角での撮影の試行や、画面分割などによるマルチアングルでの提示など、映像内に有益な情報を盛り込めるよう、効果的・効率的な編集・提供方法を検討する必要がある。

【他の授業科目への適用可能性】

- ・現在、学校教育では、一斉授業中心の学びだけではなく、「個別最適な学び」の実現が求められている。「個別最適な学び」を促すためには、学習者一人一人が、興味・関心や特性に応じた学習に取り組むことのできる、カリキュラムと環境づくりが重要である。

・本取組では、コルトハーヘン(2010)のALACTモデルを基にしたカリキュラムのより、学習者の実践―振り返りを往還させるとともに、振り返りレポート作成で「個別最適な学び」を促し、他者との意見交換やケーススタディで「協働的な学び」につなげ、個々の考えを交流・深化できるよう工夫した。 ・また、環境づくりにおいては、2つの映像により直接経験とは異なる視点を提供した。 ・その結果、振り返りレポートや授業観察などからは、学習者一人一人が自身の課題や目標を設定し、それをもとに解決策を考え実行しようとする主体的な姿勢が見られた。 ・このことは、一人ひとりの学生の中でAAR（Anticipation 見通し, Action 行動, Reflection 振り返り）学習サイクルが機能していると言え、『OECD ラーニング・コンパス 2030』（OECD, 2019）の中心概念である Student Agency（変化を起こすため、自身で目標を設定、振り返り、責任を持って行動する力）の育成にもつながると考える。 ・加えて、学生のアンケートなどからは、Flavell(1987)や三宮(1998)が述べる、メタ認知的モニタリング（自分の状態を客観的に捉え、知識などの不足などを確認すること）や、メタ認知的コントロール（モニタリングによってわかった情報から、改善に向け行動を工夫すること）が行われている様子が伺え、経験学習サイクル（Kolb, 1984）と、「360度映像」や「従来型映像」の視聴の組み合わせは、学習者のメタ認知力の育成も期待できる。 ・このような、多角的な視点からの映像を活用した経験学習サイクルによる学習デザインは、教職課程だけではなく、「省察的实践家」(reflective practitioner)」として行為の中の省察（状況との対話）により新たな知を生み出していくことが求められる、専門職（教育や福祉、医療、対人援助職（社会福祉士、ソーシャルワーカー、心理士）等）の養成においても適応可能であると考ええる。	
参考文献 1) コルトハーヘン,F.(武田信子監訳)(2010). 教師教育学:理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ, 学文社. 2) ドナルド・ショーン(柳沢昌一/三輪建二監訳)(2007). 省察的实践とは何か:プロフェッショナルの行為と思考, 鳳書房 3) ドナルド・ショーン(佐藤学/秋田喜代美訳)(2001). 専門家の知恵:反省的实践家は行為しながら考える, ゆるみ出版 4) ドナルド・ショーン(柳沢昌一/三輪建二監訳)(2017). 省察的实践者の教育:プロフェッショナル・スクールの実践と理論, 鳳書房. 5) Flavell, J. H. (1987). Speculations about the nature and development of metacognition. In F.E. WEINERT and R.H. KLUWE (Eds.), Metacognition, motivation, and understanding. Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates. pp.21-29 6) Kolb, D. A. (1984). Experiential Learning: Experience as the Source of Learning and Development, Prentice Hall. 7) OECD. (2019). An OECD Learning Framework 2030. The Future of Education and Labor, 23-35. 8) 白井俊 (2020). OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来:エージェンシー、資質・能力とカリキュラム, ミネルヴァ書房. 9) 三宮真知子 (1998). メタ認知能力を伸ばす, 日本科学教育学会研究会研究報告, 13(2), 45-48.	
(所要経費及び実施時期) の報告 360度カメラ (Insta360) を購入し、「英語科教育法B・D」「教職特講」の2講義を対象に、後期授業期間(9/24(日)～1/24(金))に実施した。	
(執行経費内訳)	
・ 360° カメラ 1 台 (insta360X4) 79,002 円	・ カメラスタンド 1 台 9,160 円
・ MacbookAir13/16G/512G 209,800 円 (大学生協)360° 動画編集用)	・ カメラ用予備バッテリー 15,000 円
・ HS-I/V30/exFAT/マイクロ SD 9,300 円	・ USBType-CHub 7,490 円
・ 外付け SSD(映像データ保存用) 34,980 円	・ その他消耗品 (充電器、ケーブル、アダプタほか) 5,550 円
合計 370,282 円	

記述欄が不足する場合は、拡張してください。

提出期限 2025 年 2 月 14 日(金)17 時